

斗止米訪佐 斗止米訪佐

斗止米訪佐 斗止米訪佐

11月10日、聖濟学部の学友諸君の庄作的な参加の下、聖スト実(準)結成をかける。

聖濟学部においては、一定程度の斗争の立ちあがりがあったが、11月10日、庄作的な斗争の参加により聖スト実(準)結成を成す。統一団交貫徹の目的は、斗止米訪佐の斗争に勝利のストロガンの下かちとり、斗止米訪佐の名が因交聖実全学統一ストに連帯し、ストライキに突入したことを、まずもって報告して大きいたい。

11月10日、斗止米訪佐斗争への向け、強固なストライキ体制を構築せよ。

現在、佐ト帝曰キ文内閣は、以前からのまま政治的布石のまま、11月の藪米斗止米訪佐により、70年代へ向けてのアジア戦略を最終的に決定しようとしている。その本質は、戦後米帝ハ一元的支配によるこの革命を破口とした植民地革命の前進と、その中で顕在化したエト以下価値の深化による、斗止米訪佐の動揺しつつある世界情勢の下、日帝が51年のサンフランシスコ条約によって、米軍政の下に、設置されてきた米軍基地を、斗止米訪佐してきた。日帝ハ大日主の十三ヨナリズムを背景として、米軍基地の核抜き、本土を並みしハポーズによる返還をすることにより、更なる政治的、経済的、軍事的、核的、軍事的基地を、日本核軍保、ア三ア核軍保、核軍基地の整備として、さらには、日帝ハア三ア侵略の前進基地、日帝ハア三ア反革命の中核基地として、日帝ハア三アの政治的意図を、帝曰キの政治ストライキと連帯した、強固なストライキで断固粉碎してゆかねばならない。

スナニニ
12日、1時半、教養ゼミ決起集会
13日、3時、南町公園↓デモ↓中絶まで

聖スト実(準)